

## 第2回かほく市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議

### 議 事 概 要

日 時：令和7年1月8日（水）13:22～15:02

場 所：かほく市役所2階 議会会議室

1. 開会
2. 議事
  - ①総合計画、総合戦略の計画期間について
  - ②人口ビジョンの将来人口推計について
  - ③デジタル田園都市構想総合戦略の体系について
  - ④デジタル田園都市構想総合戦略の具体的な取り組みの方針及び事業概要について
3. 事務連絡
4. 閉会

#### 委 員 名 簿

整理番号	選出組織・団体	職	氏名	出欠
1	かほく市商工会	会長	南 春夫	出
2	石川かほく農業協同組合	代表理事専務	村井 一宏	出
3	石川県立看護大学	教授兼附属図書館長 DX推進委員会委員長	小林 宏光	出
4	金沢学院大学附属高等学校	副校長	谷内 正樹	出
5	かほく市町会区長会連合会	会長	西田 省三	出
6	かほく市女性協議会	会長	松村 千恵	欠
7	株式会社 北國銀行	公務部部長	山田 泰輔	出
8	金沢公共職業安定所	所長	佐々木 利弘	出
9	株式会社 P F U	取締役常務執行役員	宮内 康範	出
10	かほく市社会福祉協議会	常務理事	越井 謙一	出
11	かほく市	副市長	竹本 重久	出

## 議 事 概 要

○各委員、●かほく市事務局

### 1. 開会

- ・千田地域政策部長 挨拶

### 2. 議事

#### ①総合計画、総合戦略の計画期間について

- ・事務局より、総合計画、総合戦略の計画期間について、会議資料に沿って説明。

#### 【質疑・意見交換等】

意見なし

#### ②人口ビジョンの将来人口推計について

- ・事務局より、人口ビジョンの将来人口推計について、会議資料に沿って説明。

#### 【質疑・意見交換等】

(委 員)

- ・人口の伸びの要因は、若者マイホーム取得奨励金や新婚さん住まい応援事業が大きな要因となっているとのことであるが、昨年1月1日の能登半島地震でかほく市にもおよそ158世帯が能登地区から被災して避難してきている。そのような一時的な人口の伸びもこのビジョンに取り込んでいるのか。
- ・新婚世帯や看護大生がかほく市内でアパートを探すことに苦労しているという話を聞く。今後、アパートの供給不足が人口増加のボトルネックとなることを懸念している。

(事務局)

- ・震災による一時的な人口流入はビジョンには含んでいない。ただし、移住関連施策を活用して転入してきた方を加味した数字なので、その中に被災者が全く含まれていないとは言い切れない。
- ・市では移住から定住に繋がる施策を行っている。アパートに住んでかほく市のよさを実感していただいた方に、家を建てるなどして定住してもらえるような制度設計をしているので、ずっとアパートが満室で、新しい世帯や学生が入ってくる隙間が全くないということにはなっていないと分析している。

(委 員)

- ・現在、社会福祉協議会で災害ボランティアセンターの業務を行っており、みなし仮設や市営住宅の支援などにも関わるなかで、民間アパートの経営者からも空き家を探しているなどといった話を聞くので、そのような心配があり質問した。

(事務局)

- ・アパート等の住まいの確保を市の総合戦略に組み込むとなれば、例えば市営住宅を新たに建設するなど、市が直接的に何かしらの施策を行うという事になるが、今回の戦略案にはそのような事業は含まれていない。現在かほく市では、民間の方々が宅地造成やアパート建設を

盛んに行っている。市としては、家賃補助などを呼び水に入居される方を増やすことで、今後も住宅供給が続いていくよう支援するというスタンスで考えている。

(委員)

- ・印象としてはかほく市の人口は増加傾向にあると考えていたが、人口ビジョンでは2035年頃から下降していくとなっている。せめて横ばいで人口が保たれるぐらいで考えた方がよいのではないか。

(事務局)

- ・社人研の推計値も前回と比較すると下降線の角度が大分緩やかになってきている。一方で、国全体で少子化に伴う人口減少は避けられない部分があり、現在続けている転入者の増加は周辺自治体とのパイの取り合いである以上、いつまで継続するか分からないところでもある。そういった事から、将来的に避けることが出来ない人口減少の中で、どのような施策を考えていかなくはないかという観点からこの推計値を採用している。

(事務局)

- ・委員のおっしゃる通り少し強気の推計で計算すると、驚くような数字がでる。これはあまりに現実離れしているということで、より現実に近く、目標として適正だというふうに判断したものが、この人口ビジョンであると捉えていただきたい。

(委員)

- ・事務局の話の捕捉として、現在かほく市では年間300人の出生があるが、一方で死亡者は400人を超えており、自然減が100人ということとなる。つまり、9年連続人口増加というのは社会増の部分であり、これも毎年一定に増えている訳ではない。社会増の今後の数値は不透明な部分があり、出生率は現在も1.8に達していない事から、今後も人口が右肩あがり増加していくという推計は現実離れしているため、このパターンに落ち着いたというのが事務局の判断かと思う。

### ③デジタル田園都市構想総合戦略の体系について

- ・事務局より、デジタル田園都市構想総合戦略の体系について、会議資料に沿って説明。

#### **【質疑・意見交換等】**

(委員)

- ・かほく市はこれまで観光面で苦労しているという印象を持っていたが、今回新しい点としてスポーツを軸とすることが挙げられおり、これはスポーツを中心に関係人口を増やし、関係人口が増えると、創業なども増えるという繋がりであったり、スポーツ文化の意識を高めることでスポーツを通じた教育の質も高めるということに繋がっておりよいと思った。あとは、分野を横断しているような取組があるので、縦割りにならず連動していけるような取組となれば、より良い効果が生まれるのではないかと感じた。

(事務局)

- ・スポーツについては、今年度4月に総合体育館がオープンし、PFUブルーキャッツ石川かほくが、ホームタウンとしてそこで年間16試合のホームゲームを行っている。市としまして

は、これを新たな観光コンテンツとして位置づけ、市外からの新たな人の流れが生まれる中で、初めてかほく市を訪れる方に特産品や主要産業を知ってもらいきっかけとなればと考えている。また、これまで北部、南部としていた交流ゾーンに、この総合体育館や同じく今年度4月にオープンしたかほくくるプラスも交流施設の軸に加えて、交流ゾーンのさらなる活性化に取り組んでいくということも、次期の総合戦略に加えている。

(委員)

- ・生涯学習の視点が体系には示されていないが、具体的な施策や方針の中に入っているという理解でよいか。

(事務局)

- ・多様な世代の学びなど、生涯学習に関する直接的な表現は今回の総合戦略には盛り込んでいない。

(委員)

- ・スポーツの振興はある種、健康づくりに対する学習という面もあるし、哲学館の振興も、地域住民の生涯学習的に結びつくと言える。言葉としては、項目として盛り込まれていなくとも、内容的には広く含まれているということではないか。

(委員)

- ・市民アンケートの結果が具体的な施策に反映されているのか、いないのかを次回以降でもよいので明確にしてほしい。

(事務局)

- ・アンケートの中で満足度が低く、重要度が高い項目が取組を進めていくべき施策として総合戦略に反映している。具体的には、「空き家対策の推進」「防災減災対策の充実」「地球温暖化対策推進」「公共交通の利便性」といった項目である。

(委員)

- ・商工会でも看護大生と共同でいろんなイベントや企画を催せないかという話は度々あがっているが、なかなかよい案がなく実現にいたっていない。実現すれば、これは北部交流ゾーンの充実に繋がると考えている。行政の方では、そのような構想等は何かないか。

(委員)

- ・その件に付随して、過去にわくわく健康教室というもので、看護大学の食堂や体育館を利用し、大学生と一緒に催しや勉強、運動を行い、それらを通して市民との交流を図るという事業を数年間行っていた。このように、大学の施設等を活用しつつ学生と市民が交流するような事業を展開できればよいのではないかと思う。

(事務局)

- ・市では看護大学と包括連携協定を結んでおり、多方面で連携事業を既に実施している。最近の事例でいうと、eスポーツを体験された方の認知機能の調査や、商工会青年部と看護大学の先生と一緒に、かほくくるでイベントを開催したりということを行っている。また、現在模索しているところではあるが、かほく四季まつりに企画の段階から看護大生に入ってもら

い、一緒に運営をしていってもらおうといったことも考えている。このように、今後も様々な形で看護大学と連携を図っていく。

(委員)

- ・大学としての反省点でもあるが、看護大生は実習が多く、一般にイメージする大学生よりも余裕があまりない。しかし、大学祭なんかも、市のイベントと連携させるというような考えもあるし、何かできることはあると思う。

#### ④デジタル田園都市構想総合戦略の具体的な取り組みの方針及び事業概要について

・事務局より、デジタル田園都市構想総合戦略の具体的な取り組みの方針及び事業概要について、会議資料に沿って説明。

#### 【質疑・意見交換等】

(委員)

- ・子育て支援、介護など、取組のうちかなりの項目が看護大学と関係するものであると感じた。余計な仕事を増やすのではなく、教員、学生の研究学習の活動とうまくマッチングさせて、大学のリソースを活用した連携ができればと思う。

(委員)

- ・この事業概要案を今年度3月までに取りまとめて、この会で決定するという認識でよろしいか。

(事務局)

- ・本日提出したものは事務局の案として提案させていただいたものであり、皆様からいただいた意見を反映させたいうえで、3月には総合戦略の中に事業を落とし込んで完成させ、4月から新しい総合戦略に基づいた事業を展開していくということになる。

(委員)

- ・市民アンケートの中で、重要度が高く、満足度が低い項目の中で「公共交通の利便性」や「生活道路の整備」という項目があるが、基本目標4の中にあまり記載がないが、これらの項目について現状の課題と今後の対応方針についてどのようにとらえているか聞かせてほしい。かほく市の南部は住宅を建てることのできる地面が少なくなっており、今後北部の方に居住される方が増えた時に、市全体として「いいまち」にしていこうとなったら、より一層公共交通の利便性や道路の整備といった声が挙がってくるのではないかと。

(事務局)

- ・市としても、各種移住施策の利用状況から、住宅建設のラインが北部側に上がってきているということは把握している。具体的な事業ではないですが、市では、来年度以降立地適正化計画の策定を予定しており、この計画は公共交通とも非常に密接に関わっているため、この計画策定と同じようなタイミングで地域公共交通計画を策定することも検討している。この地域公共交通計画の中で、かほく市として今後どういった公共交通を整備していけばよいの

かという事を考えていくこととなる。

(委員)

- ・事業 No. 20 に「自治体 DX 推進による行政事務の効率化」とあるが、市民の声を踏まえて検討されている内容や、今後の展開などを聞かせてほしい。

(事務局)

- ・市民の利便性の向上という観点から、ワンストップサービスや電子申請の拡充などを進めていかななくてはならないと考えている。またそれとは別に、行政内部の効率化が、ひいては市民サービスの向上に繋がるという思いから、庁内業務の DX も推進していなければいけないと考えている。デジタル化のツールは日進月歩の世界なので、情報収集をしながら様々な検討を進めている。

(委員)

- ・資料 4-1 でいくつかの事業が「基本目標〇の総論にて内容記載のため削除」となっているが、この総論というのはどの部分になるのか

(事務局)

- ・第 2 期総合戦略の冊子をお見せして各基本目標の総論部分を説明

(委員)

- ・事業 No. 16-18 について、現代的な教育の課題がしっかりと盛り込まれており、さらに「学校を核とした地域の活性化」という、かほく市らしさも出ている事から大変よくできていると感じた。旧町時代からかほく市では教育を非常に大切にしてきた。

(委員①)

- ・事業 No. 19 「地域 DX による地域づくりと人材育成の推進」について、e スポーツを使った人材の育成というのは、ゲーマーの育成に偏ってしまうことが多く、設備投資の金額が大きい割に DX 人材の育成には繋がらず、その効果は薄いので、再考された方がよいのではないかと。一方で、事業 No. 26 「市民の健康づくりと「健康なまち」づくり基盤の整備」にあるような、高齢者の方々に向けた e スポーツの取組は、認知機能低下予防など、効果が高いと思われるので取組んでいけばよいと思う。

(委員②)

- ・事業 No. 19 については、e スポーツの人材育成をしようという主旨ではなく、地域課題の解決の一つのツールとして e スポーツを活用しようという主旨かと思ういかがか。

(事務局)

- ・主旨は委員②の発言の通りである。e スポーツを活用して、年齢、障害の有無を問わずいろんな方々の交流を促進し、地域づくりにつなげたいということが主旨であるため、表現が分かりにくい部分は修正したい。

(委員)

- ・この28事業にはデジタルが関連するものもあれば、まったく関連のないものの中に含まれているが、このデジタル田園都市構想総合戦略に含むべきものと、10年計画である総合計画に含めるべきものの住み分けはどのように考えるのか。

(事務局)

- ・今回市の総合戦略の名称を変更するのは、国の総合戦略が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変わったからであるが、その際、国からの説明においても、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変わっても、地方創生という基本方針は変わらない。ただ、デジタルの力を活用してその取組を加速させましょうということであった。地方創生の全ての取組がデジタルの力で解決するわけではなく、あくまで総合戦略の主眼は地方創生の部分にあるということです。直接的にはデジタルと全く関係ない事業も市の総合戦略には多分に含まれているが国の総合戦略の主旨には反さないとご理解いただきたい。

(委員)

- ・事業No.13「妊娠から出産・子育てまで切れ目のない支援」に産後ケア事業のオンライン申請を含めてはどうか。

(事務局)

- ・子ども家庭課にその旨伝達のうえ、事業個票を作成する際に記載を盛り込むようにしたい。

(委員)

- ・企業誘致について、これまでの工場や事業所の誘致はもちろん、市民アンケートにもあったように市民は外食チェーン店など待ち望んでいるので、そのような店舗の誘致なども積極的に行ってはどうか。実現した際にはハローワークとしても就職面接会の開催など、積極的に関わっていきたいと考えている。
- ・地元の高校生、大学生向けにかほく市の優良企業の情報提供を行うことが重要と考えているので、そのような場となる合同の企業説明会の開催を検討してはどうか。かほく市に優良企業があるということを知ってもらえれば、若年層の流出の抑止にもつながるのではないかと考えている。

(事務局)

- ・外食チェーンの企業誘致について、魅力的なチェーン店があるということがまちのブランド力の向上に繋がるということは理解しているが、一方で飲食業界の出店計画というのは、誘致というよりも企業のマーケティングによって決断される例が非常に多いというところがある。難しい面もあるが、これまでの工場や事業所のみならず、商業分野の企業の誘致という視点も今後は取り入れていければよい。
- ・企業情報の提供について、かほく市には大学はあるが看護大学のため、一般の就職活動とは若干事情が異なっており、高校が市内にないため、高校生へのアプローチの足掛かりがなかなか掴めないというのが現状である。今後ハローワークと共同でかほく市の高校生、大学生世代へアプローチする仕掛けを構築できればよいと考えている。

(会 長)

- ・本日委員各位から多岐に渡る意見をいただいた。事務局でしっかりとこれらの意見を受け止め、総合戦略に反映させてほしい。

3. 事務連絡

4. 閉会

- ・南副会長 挨拶

以上